

三州足助屋敷で遊んで勉強します

バスは、足助バイパスを走り、町の北側を通り足助トンネルを抜け、足助大橋西信号を左折して、足助大橋を渡り足助の町へ入って来ます。

バスは大型のため小回りが利かないので、乗用車のような訳にはゆきません。

国道420号を信州方面へ遡って366号線と別れ、鳳来寺道（420号）を進みますと「落部駐車場」がありますので、そこで降りていただき、巴川右岸の遊歩道を、約15分歩いて、「三州足助屋敷」へまいります。

約700m位の下り道です。三州とは、今年の1月の冬の歌の会で勉強しました、「信濃の国は十州に……」の一つ「三河」のことです。

この三州足助屋敷は足助観光公社が運営しています。長屋門の受付を抜けると、そ



炭焼きや水車の有る風景

こは、古き「ふるさと」の世界です。炭焼き、鍛冶屋、傘屋、機織り、桶屋、紙すき、ワラソウリ、竹かご屋、木地屋、紺屋、竹細工屋などが軒を並べ、職人さんが実演し、製品を購入することもできます。

この施設は、昭和55年に開館され、生きた民族資料館といわれています。

かつての豪農屋敷を再現し、長屋門、母屋、竹屋などは、茅葺の木造建築物です。

施設が一番奥に、萬々館といって、アジア国々を紹介する施設もあります。ミニ万博といった感じがします。

子供や孫のお土産に「和紙製品」「手造りお手玉」、食事のお供に「玉こんにゃく」「天然醸造味噌」「山牛蒡漬」「菊芋漬」デザートに「柚餅子」「バーバラスク」等々いかがですか？

施設には予定で、10時25分に着きまして約50分間とってあります。見学が終わりましたら、また歩いて香嵐溪の紅葉ならずぬ緑のトンネルを抜けて、食事処の参州楼さんへ行きますので、あまりたくさんのお土産は買えませんので、よろしくお願いします。

長屋門前で記念撮影をいたします。



三州足助屋敷には牛もいますよ



和傘を作っている工房



藍染を作っている工房